

「社会に開かれた教育課程と コミュニティ・スクール」

【教育課程を「開く」とは、
そして、「開く」のは、誰だ？】

背景



中央教育審議会
教育課程企画特別部会から

これからの未来は、変化の激しい予測が難しい不透明な社会となっています。

その中で、子供たちが、これからの社会をたくましく生き抜いていくための必要な資質・能力の育成が求められています。

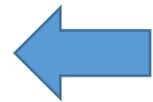
教育課程を「開く」とは

- これまで学校だけの視点で作られ進められてきた教育課程や教育活動を【インブリーディング】
- これからは、教職員が地域や社会、そして、世界に目を向け【虫の目、鳥に目、魚の目】
- 地域や社会との接点を持ちながら、地域の人々などとながりの中で【ブレイン・ストーミング】
- 子供たちが学んでいけるよう教育課程を開かれたものとするのが不可欠【垣根を超えて】

「社会に開かれた教育課程」の理念

「子どもたちが未来の創り手となるために求められている
資質・能力を育んでいく」ために

3つのポイント



中央教育審議会
教育課程企画特別部会から

- ①教育課程を介して目標を学校と社会が共有
- ②子供たちの育成すべき資質・能力の明確化
- ③地域の人的・物的資源の活用、社会と共有・連携しながら、開かれた学校教育の展開

コミュニティ・スクールの 果たす役割(結びつき)とは

これからは

- ①学校教育が目指す普遍的な教育の根幹は堅持しながら、
- ②学校教育の柱である教育課程そのものが地域や社会、
世界とつながりを持ち、
- ③子供たちをどう育てるかなどを明確化し、
- ④学校と保護・地域が共有し、
- ⑤社会の変化に目を向けかつ柔軟に受け止めていく
「社会に開かれた教育課程」が提起されました。



地域との接点という手段(ツール)として、コミュニティ・スクール

「社会に開かれた教育課程」の役割

子供たちをどのように育むか

教育課程を介して目標を
社会と共有

社会の形成者として、自尊心・自己肯定感・自信の育成
学校が社会や世界との接点を持ちつつ、多様な人々との
つながり保ちながら学ぶことのできる、開かれた環境づくり

育成すべき資質・能力の
明確化

- ①知識・技能、
- ②思考力・判断力・表現力
- ③主体性、多様性、協働性

カリキュラム・マネジメント

地域の人的・物的資源の活用
社会教育との連携（放課後子供教室、土曜日学習等）
社会と共有・連携し、保護者や地域を巻き込んだ教育活動

「カリキュラム・マネジメント」 3つの側面

1. 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していく。

2. 子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。

3. 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

「アクティブ・ラーニング」と「カリキュラム・マネジメント」連動させて学校経営の展開

教育課程全体を通しての
取組

- ・教科横断的な視点で、教科関東の内容事項の相互の観点付け
- ・特別活動や総合的な学習時間における育む資質・能力の明確化

学校全体としての取組

- ・教科等の縦割りや学年を超えて、学校全体で取り組む
- ・学校の組織及び運営の見直し、教職員の必要性の理解と意識改革
- ・学校内だけでなく、保護者や地域の人々を巻き込んだ教育活動

アクティブ・ラーニングの視点と連動させた学校経営の
展開

- ・形式的に対話型授業や特定の指導の型の技術改善に留まらず
- ・子供たちの質の深い学びを引き出すか、学習の在り方の問い直し

教育課程の実施状況の
把握

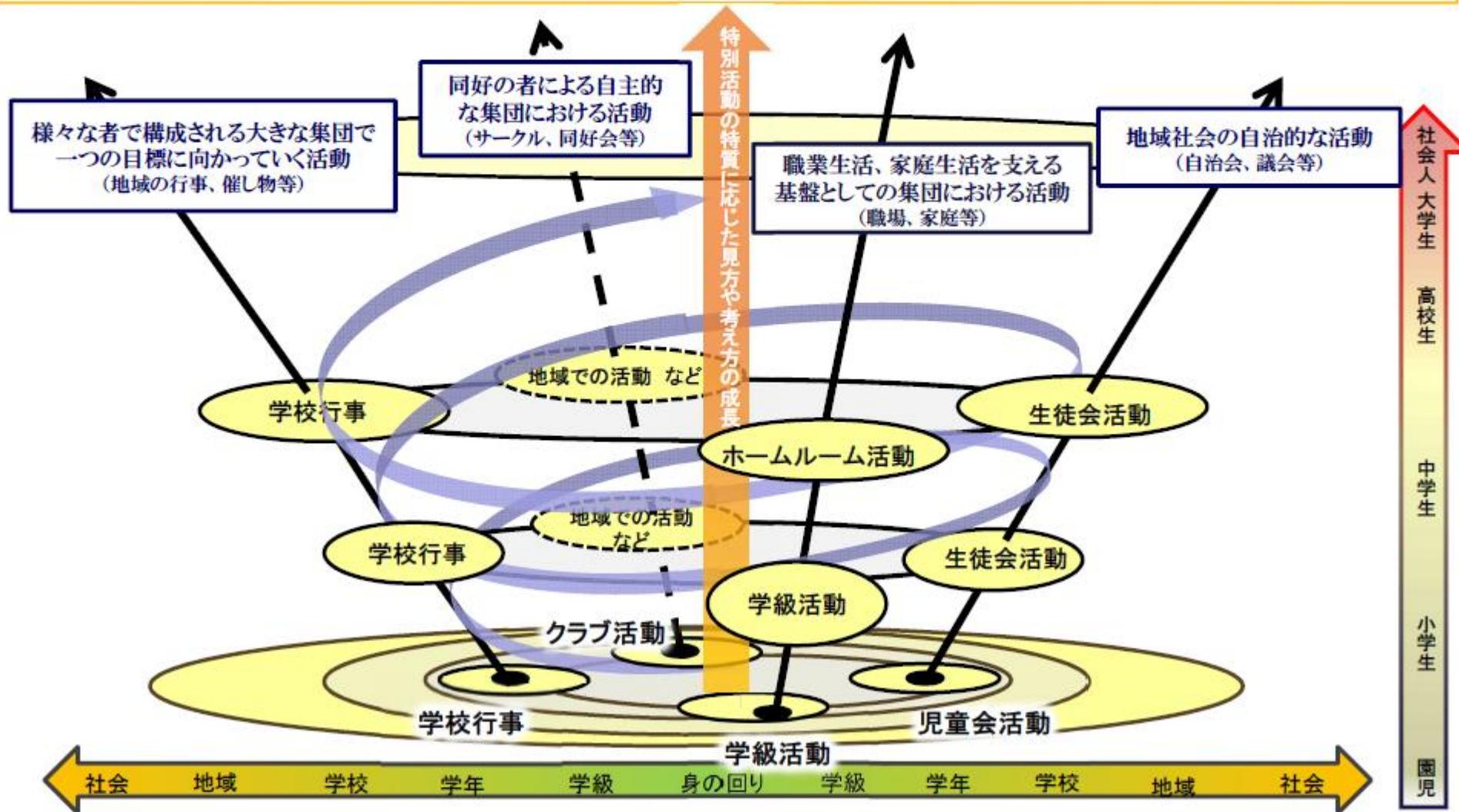
- ・子供たちの姿や地域の現状等を把握できる調査を定期的に実施し

特別活動における各活動の整理と「見方・考え方」(イメージ案)

平成28年6月22日
特別活動WG
資料3

《特別活動における「見方・考え方」》

各教科等の特質に応じて育まれる見方や考え方を総合的に活用して、**集団や社会の形成者という視点から問題を見出し、よりよい人間関係の形成、よりよい集回生活の構築や社会への参画及び自己の実現の視点からその問題を解決するために考えること**



出典：文科省

社会に開く主体は…誰だ？

- ①地域や社会そして世界の状況を幅広く視野に入れ
- ②学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を持ち
- ③教育課程を介してその目標を社会と共有していく
- ④教育活動を社会と協働で活動する



★ 教育課程を社会に開く主体である学校の教職員自らが
当事者意識と意欲の喚起が重要

「チーム学校」としての組織的展開

「社会に開かれた教育課程」における、「開く」ことのポイントは、
教育目標等の作成におけるプロセスが大事

教育目標作成にあたって、教職員や地域がスタートの案段階から関わる

そのことで、責任とともに実施主体者であることの当事者意識が芽生える

学校と地域が協働で教育活動を組織的に展開されることが

チーム学校

「熟議」が大事

•学校・家庭・地域の関係者がみな当事者意識を持ち

地域でどのような子供を育てていくのか

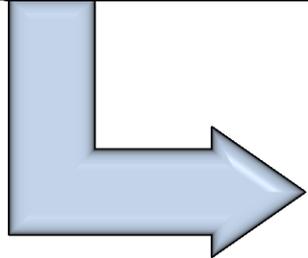
教育課程も含め何を実現するのかという
目標・ビジョンを共有

「熟議」を重ねる

地域ととともにある学校

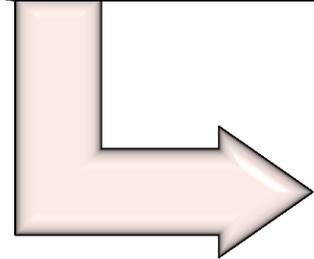
熟議

- ・ 目標・ビジョンの共有
- ・ 信頼関係の構築



参画

- ・ 当事者意識をもって

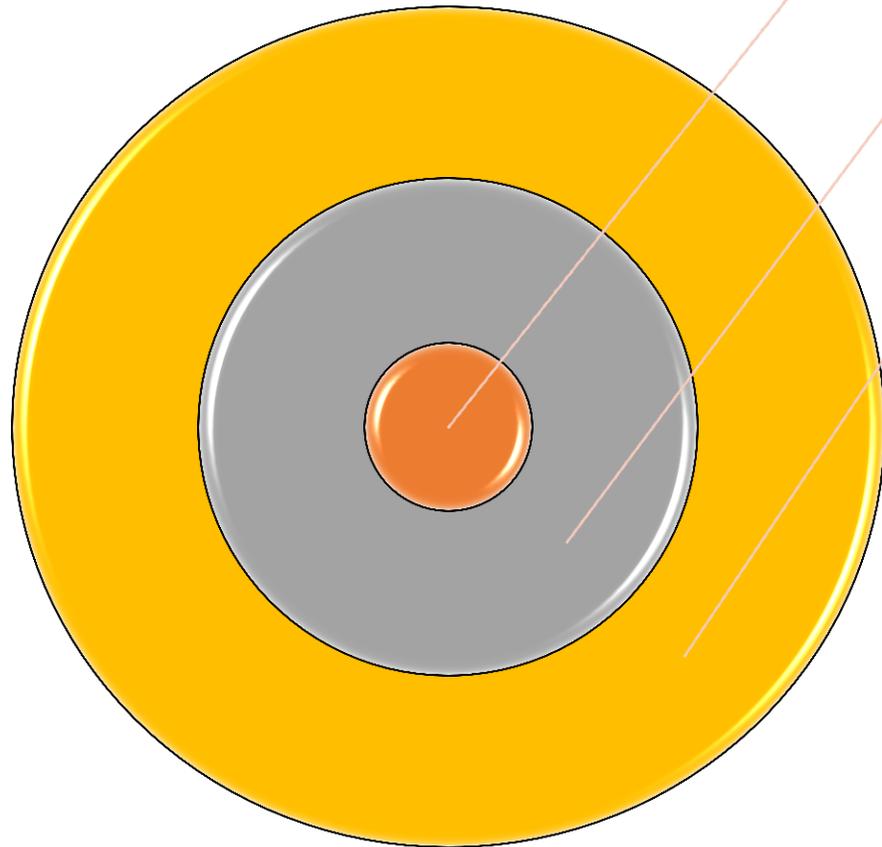


協働

- ・ 共通の目標に向けて

マネジメント＝管理職のリーダーシップ

地域とともにある学校



子どもの学びを中心に据え
(目指すべき目標・ビジョン)

学校内の組織運営

地域との関係性を構築し、
地域人材や資源等生かした
学校運営

「つながり」
カリキュラム・マネジメント

資料

みんなで・・・さらなる学校と地域の連携・協働に向けて

①知る(情報共有)

子供には、地域には
どんないいところがある？
どんな課題がある？

②考える(熟議)

こんな子供に育ててほしい！
こんな学校を創りたい！
目標・ビジョンの共有

心を合わせて
地域の子供を育む

コミュニティ・スクール

③実現させる(協働)

学校、地域、保護者、子供の役割分担
共有した目標に向かって、共に汗を流そう！
学校を核とした地域ネットワークでつながろう！

④振り返る(評価)

持続可能な取組にするために
協働する楽しさ、喜び、手応えを
分かち合おう！

マネジメント

校長のリーダーシップのもと
目指すビジョンの達成に向
かって、教職員全体がチーム
として力を発揮し、地域の力
を生かした学校運営を！

地域とともにある学校運営に欠かせない3つの機能

熟議

- ・ 当事者意識をもって【熟議】と【討議】
- ・ 「学校や地域の課題」「目標」を【共有】

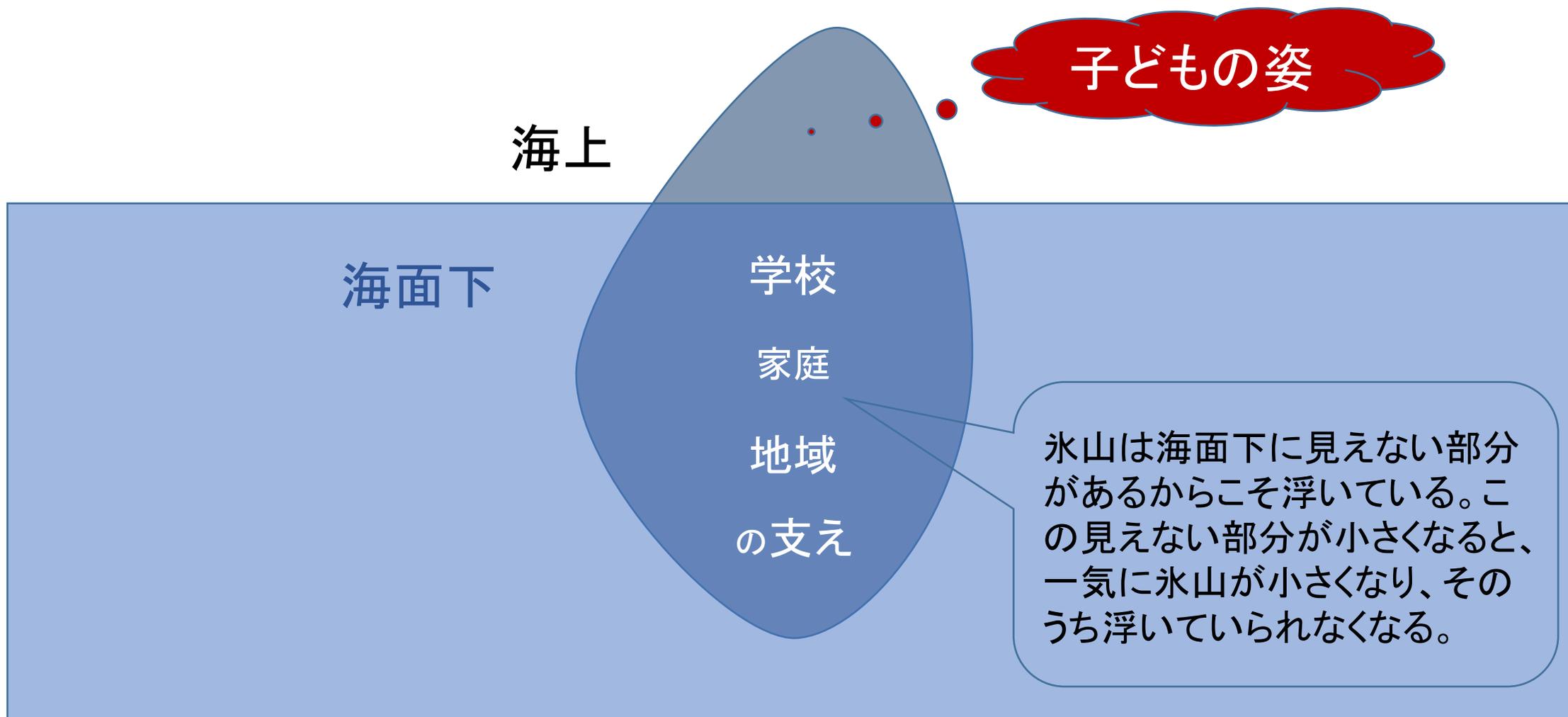
協働

- ・ 学校運営に地域の人々が【参画】
- ・ 共通の目標に向けて【連携・協働】

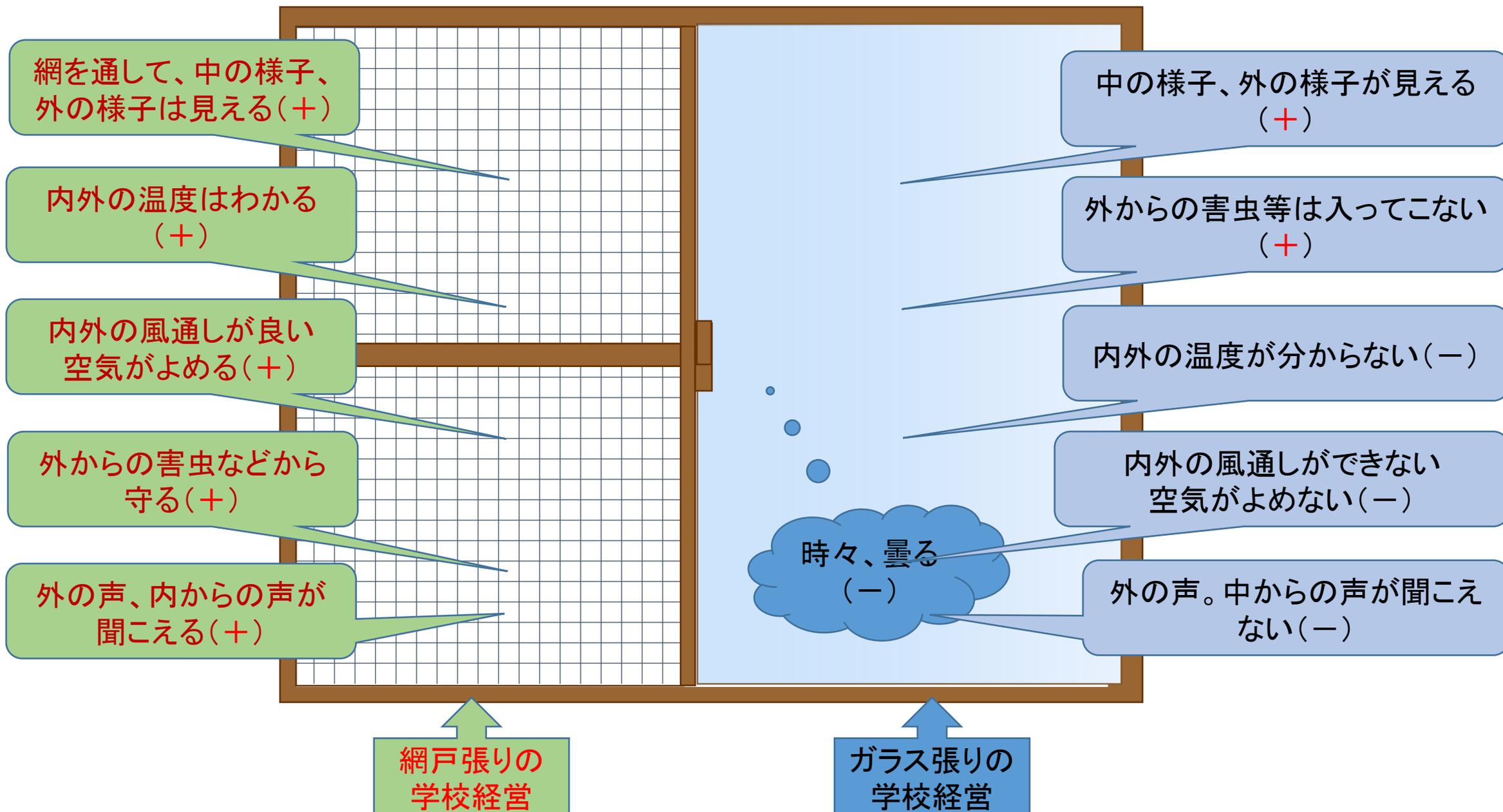
マネジメント

- ・ 目標達成に向けた校長のリーダーシップ
- ・ 地域人材や資源等を生かした学校運営

学校・家庭・地域の支えが子供の姿



ガラス張りの学校経営から網戸の学校経営へ



常に新鮮な視点で

細部にこだわらず、
全体像をとらえる。

鳥の目

普段見過ごしている
細部に目を向ける。

虫の目

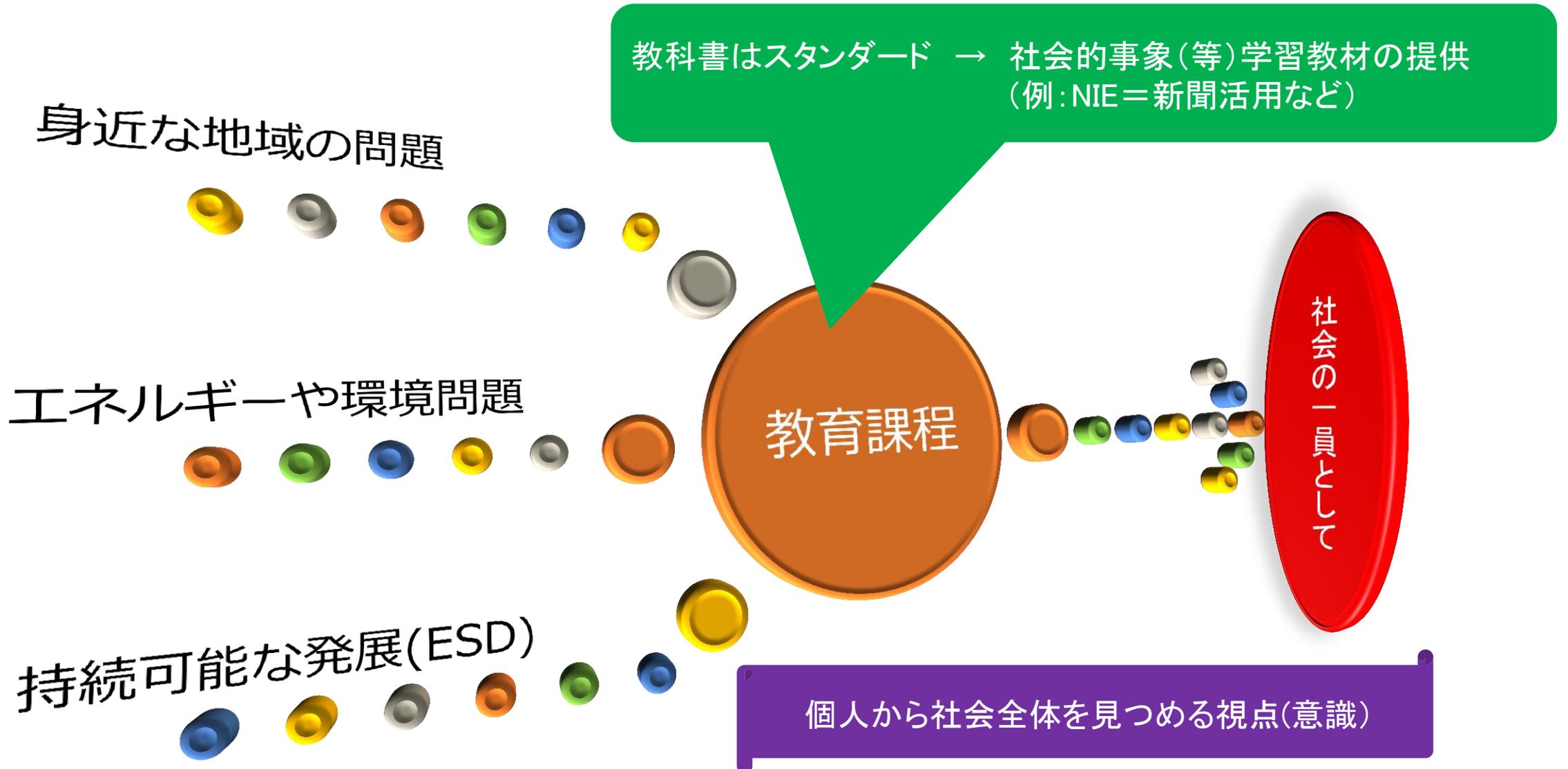
新しい発想

時代がどちらの流れ
であるかを意識する。

魚の目

魚の目、鳥の目、虫の目
潮流 マクロ ミクロ

社会に開かれた教育課程はキャリア教育の視点で



子供たちが変化の激しい社会を生きるための必要な力の育成に向け「子供たちが、現実の社会の問題に向き合うことで、社会とのつながりを意識」

社会や世界の状況を視野に入れた教育活動

基礎的・基本的な
知識・技能



世界の
動き

学校は社会の準備段階

関連性
発見

教科
授業

日本の
動き

教育課程を介してそ
の目標を社会と共
有・連携

仕掛け人
教師・司書

大分県
の動き

学校と社会との
つながりを持った
教育課程

学校評議員から学校運営協議会への発展

当事者意識を持って学校運営に対する意見を述べるようになります。
学校運営についての熟議の場を持ち、その結果をもとに協働していくことで、学校運営全般への参画を促します



校長の求めに応じて意見を述べる事ができる



※合議体ではない

※合議体・・・複数の構成員の合議によってその意思を決定する組織体

①学校評議員の選任は、協働して活動できる人を選ぶ



②学校の課題や目標を共有した上で、学校運営について積極的に意見交換できる合議体を形成し、学校運営に参画していく素地をつくる。

<合議体>



③学校評議員が積極的に意見を述べていくために、学校行事や授業など、実際に子供の姿や学校の取組を見て教職員と意見交換するなど。



④学校評議員を学校運営協議会委員に任命し直す、学校運営協議会へ発展。



学校評議員から学校運営協議会を置く「コミュニティ・スクール」に移行することによる主な魅力・メリット

- ・ 学校運営の当事者として、学校運営協議会委員の意見が学校運営に反映され ➡ 学校運営の改善・充実
- ・ 学校・家庭・地域において、共通したビジョンをもった取組の展開が可能となり ➡ 一方的な支援にとどまらない、主体的・能動的な取組の展開
- ・ 基本方針の承認を通じて ➡ 校長の地域の人々や保護者に対する説明責任の意識が向上
- ・ 地域の人々や保護者の理解・協力を得た ➡ 風通しのよい学校運営が可能
- ・ コミュニティ・スクールの場合には多様な人材の英知を結集する ➡ 学校運営の改善を果たすPDCAサイクルを確立

「学校運営協議会」

月に一回開催

の参画すること
の教育力の向上
につながる
家庭・地域



「目標協働達成会

議」



地域教育向上部会

学校運営協議会会長
玖珠警察署
PTA副会長
学校運営協議会委員



学校教育力向上部

会

P T A 副会長 学年主任 小学校校長
学校運営協議会委員 保護者代表（1，2，3
年生）

家庭教育力向上部

会

P T A 会 長
小 学 校 校 長
保 護 者 代 表 (1 , 2 , 3
年 生)
学 校 運 営 協 議 会 委 員



地域（自治委員）との意見交換



地域の活性化
改めて地域を
考え直す場

中学生議会



中学生の提
案・発想
Win・Win

教職員の皆さんへ

教育に対する「誇り」を持つこと

「教育は国家百年の大計」
その鍵を握っているのが教職員
「自信と誇り」を持って明るく元気で
活気ある学校づくりをしましょう。



福寿草とはち

御清聴、ありがとうございました。
た。